

このコーナーでは、町にゆかりのある歴史人物とその結び付きなどをシリーズで紹介しています。執筆者は山田史談会長の佐藤仁志さん（豊間根・72）です。

明治23年11月、東北線上野―盛岡間が開業、早速宮古町の政財界が動いた。地方の開発と文化の向上を図るため、盛岡―宮古間の鉄道敷設運動を始めた。県議篠民三はじめ菊地理七、菊地長七、小成周蔵らである。明治25年松方内閣のとき、盛岡出身の代議士伊東圭介の働きにより、

山田線の開通に

尽力した人々

予定線に編入された。しかし財政の緊迫、技術的問題から敷設法から除去された。大正7年、岩手県出身の原敬が総理大臣に就任すると郡会議員菊地長右衛門は山田庄助、熊谷平助ら有志の支援を得て代議士として政界に乗り出し、中央において運動を続ける。原首相、本県代議士大矢馬太郎、鈴木巖の協力、鉄道次官石丸重美の助力を得て測量を終えた。

兵衛、金石町長服部保受らが上京、盛山線（盛岡―山田間）および三陸沿岸線の請願を行った。大正9年7月9日、盛岡市長北田親氏、県議会議長大矢馬太郎、盛岡銀行常務金田一國士ら8人が首相原敬、政府首脳、貴衆両院に山田線（別称盛宮線）速成を陳情、7月28日盛岡―山田間鉄道敷設法案が貴族院を通過し、予算が計上された。当初盛宮線として宮古まで敷設する案であったが、山田港が海軍予備港であることから山田まで延長、その後金石まで延長された。

大正10年盛岡から着工、12年盛岡―上米内間が開通したが、財政難のため幾度か繰り延べされた。代議士熊谷巖、宮古町長中島源三郎、盛岡市長北田親氏、代議士高橋壽太郎らが奔走努力、昭和9年宮古まで開通し、10年11月17日豊間根駅、陸中山田駅開通、11年11月10日織笠駅、岩手船越駅開通、14年9月盛岡―金石間が全通となった。

大正8年、盛岡市長北田親氏を先頭に宮古町、鉾ヶ崎町、千徳村など関係市町村長が大蔵大臣高橋是清、内務大臣・鉄道院総裁床次竹二郎、農商務大臣山本達雄らに「盛岡―宮古間鉄道速成」の請願を行った。

一方、宮古町長関口松太郎、山田町長大久保喜重治、町議佐藤善太夫、大槌町吉井金助、荒井儀

明治23年11月、東北線上野―盛岡間が開業、早速宮古町の政財界が動いた。地方の開発と文化の向上を図るため、盛岡―宮古間の鉄道敷設運動を始めた。県議篠民三はじめ菊地理七、菊地長七、小成周蔵らである。明治25年松方内閣のとき、盛岡出身の代議士伊東圭介の働きにより、



昭和10年開通当時の陸中山田駅

県民・能率手帳を販売 便利な一冊をお手元に



2008年版の県民手帳と能率手帳を販売します。ご希望の方は、役場総務課または役場各支所でお求め下さい。両手帳には、岩手県の概要や東京都内の地下鉄路線図、郵便料金表などが掲載されているほか、別冊アドレス帳も付いています。仕事に生活に役立つ一冊をお手元にいかがですか。

▽定価

・県民手帳（ボルドー色14・0センチ×8・5センチ）：600円

・能率手帳（黒色14・4センチ×9・5センチ）：700円

※定価は消費税込みです。

▽問い合わせ 役場総務課情報管理担当（☎82-31111内線416）へどうぞ。